

生殖補助医療による妊娠と自然妊娠における母体の精神的ストレスの違い

Yoshimasu *et al.* Lack of association between receiving ART treatment and parental psychological distress during pregnancy: Preliminary findings of the Japan Environment and Children's Study. Reproductive Biomedicine & Society Online. 2017;5:5-16. doi: [10.1016/j.rbms.2017.09.002](https://doi.org/10.1016/j.rbms.2017.09.002).



【はじめに】

不妊治療の経験は、精神的・身体的・経済的な負担が伴うと言われています。特に、体外受精や顕微授精のような生殖補助医療（ART：Assisted reproductive technology）による治療を受けている夫婦は特有の不安に悩まされる可能性が高いと考えられます。そこで本研究では、妊娠中の夫婦の心理的な苦痛とART治療との関連性について調査しました。

【調査項目】

エコチル調査で得られた、ART群（母親:239名、父親:151名）、非ART不妊治療群（母親:350名、父親:251名）、自然妊娠群（母親:8,514名、父親:5,110名）における個人データと、心理的苦痛の程度を測定する質問票（6点満点）の点数を用いて、妊娠初期および中後期の精神的ストレスを調べました。



【結果】

■ 心理的苦痛の平均点数（6点満点で、点数が高いほどストレスが強い）

		ART	非ART不妊治療	自然妊娠
母親（妊娠初期）	初産	2.91	3.23	3.85
	経産	2.75	3.89	3.55
母親（妊娠中後期）	初産	2.72	2.82	3.48
	経産	2.52	3.54	3.48
父親	初産	2.33	2.15	2.71
	経産	1.77	1.96	2.67

ART治療群の母親と父親のストレスは、初産と経産の両方で、他の2群と比べて低い傾向にありました。また統計解析でも、妊娠週から出産までのストレスとARTとの関連性は認められませんでした。

一方で、ART治療群でストレスを強く感じている母親では、本人の病歴と夫からの心無い言葉がストレスに影響していました。

【この調査でわかったこと】

自然妊娠と比較して、ART治療を受けている夫婦に強い精神的ストレスは見られませんでした。理由として、我が国では晩婚化の情勢とART治療の普及により、不妊治療が広く受け入れられていることが考えられます。一方、ART治療を受けている一部の母親はストレスが強く、心理面や社会面のケアの必要であることが分かりました。

Written by Yukiko Tando